

漢詩の世界



漢詩は、美しい自然や風景、人々の思いをうたった中国を代表する文学作品です。中でも唐時代の漢詩は最も優れた詩とされ、日本でも親しまれてきました。漢詩に描かれた情景を想像しながら、音の響きやリズムを味わいましょう。

春暁

孟浩然

春眠 暁を 覚えず

処処 啼鳥を 聞く

夜来 風雨の 声

花落つること 知りぬ 多少ぞ

目標
漢詩の表現が、描かれた情景の中で果たす効果について考える。
詩句の意味に注意しながら音読し、漢詩の表現やリズムを捉える。

朗読音声



- 4【春暁】春の夜明け方。
- 6【処処】あちこちら。
- 6【啼鳥】さえずる鳥の声。
- 7【夜来】昨夜。
- 8【花落つること知りぬ多少ぞ】さぞ花がたくさん散ったことだろう。

春 眠 不 覚 暁
 処 処 聞 啼 鳥
 夜 来 風 雨 声
 花 落 知 多 少

◆孟浩然 [689-740] 中国の唐時代の詩人。清新な作風で自然を詠んだ歌が多い。四十歳で郷里から唐の都長安に上り、李白・王維らと親交を結んだ。〈詩の原文は『漢詩選7 唐詩選』による。〉

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る

李白

故人 西のかた 黄鶴楼を 辞し

煙花 三月 揚州に 下る

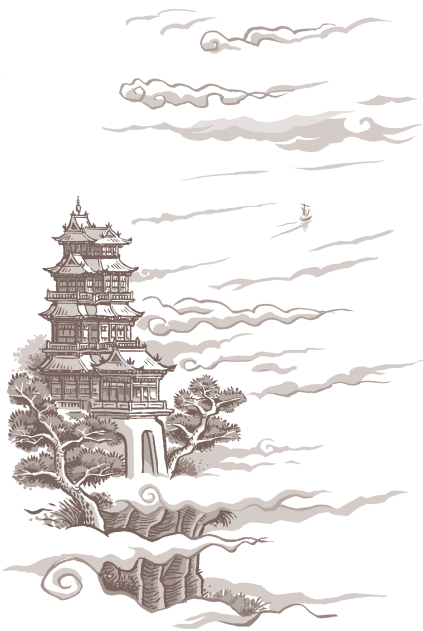
孤帆の 遠影 碧空に 尽き

唯だ 見る 長江の 天際に 流るるを

故 人 西 辞 黄 鶴 楼
 煙 花 三 月 下 揚 州
 孤 帆 遠 影 碧 空 尽
 唯 見 長 江 天 際 流

5

- 1【黄鶴楼】現在の中国武漢市の南西、長江に面して建てていた高樓。仙人が、絵にかいた黄色い鶴に乗って飛んでいったといいう伝説がある。
- 1【広陵】揚州の別名。現在の江蘇省揚州市。
- 2【故人】ここでは旧友のこと。孟浩然を指す。
- 3【煙花】花に立ちこめる霞のこと。
- 4【碧空】青い空。
- 5【天際】天の果て。空のはるかかなた。



◆李白 [701-762] 中国の唐時代の詩人。自由奔放な詩風で知られ、杜甫とともに二大詩人とされる。また、その作風から「詩仙」とも称された。〈詩の原文は『新書漢文大系6 唐詩選』による。〉

春望

杜甫

国破れて山河在り
 城春にして草木深し
 時に感じては花にも涙を濺ぎ
 別れを恨んで鳥にも心を驚かす
 烽火三月に連なり
 家書万金に抵る
 白頭搔けば更に短く
 渾べて簪に勝へざらんと欲す

国破^レ山^レ河^レ在^リ
 城^ニ春^ニ草^木深^シ
 感^{ジテ}時^ハ花^ニ涙^ヲ濺^ギ
 恨^{ンデ}別^レ鳥^ニ驚^{カス}心^ヲ
 烽^火連^ニ三^月
 家^書抵^ル万^金
 白^頭搔^{ケバ}更^ニ短^ク
 渾^{ベテ}欲^ス不^レ勝^ヘ簪^ニ

5

1【春望】春の眺め。
 2【国破れて】国の都が破壊されて。
 3【城】城壁で囲まれた都市。「国」「城」はともに当時の都、長安（現在の陝西省西安市）を指す。
 4【時に感じては】時世のありさまに悲しみを感じては。
 5【烽火三月に連なり】戦乱が三か月間続いて、「烽火」は戦いで用いるのろし火。
 6【家書】家族からの手紙。
 7【白頭搔けば更に短く】頭の白髪はかくたびに抜け落ちて薄くなり。
 8【渾べて簪に勝へざらんと欲す】全く簪をさすこともできないほどだ。「簪」はここでは冠を留めるピンのこと。
 9【杜甫】中国の唐時代の詩人。厳格で規律正しい作風で、時代を反映した叙事詩に優れていた。李白の「詩仙」に対し、「詩聖」と称された。
 10【詩の原文は「漢詩選」杜甫】による。

参考資料



漢詩の世界



目標

- 漢詩の表現が、描かれた情景の中で果たす効果について考える。
- 語句の意味に注意しながら音読し、漢詩の表現やリズムを捉える。

学びを振り返る

「漢詩の世界」での学習を通して、学んだことを自分の言葉でまとめよう。

振り返りのキーワード

漢文のリズム・情景

学びを広げる

好きな漢詩を選び、現代語の詩に作り替えよう。

私の本棚

漢詩のレッスン

川合 康三

漢詩への招待

石川 忠久

故事成語・論語・四字熟語

山口 理

構造や内容を捉える

1 語句の意味や構成などに注意して音読し、内容を捉えよう。

読みを深める

2 三編の漢詩について、それぞれ次の観点から読みを深めよう。

- ① 作者はどこにいて、何を見聞きしたか。
- ② そのときの作者はどのような心情か。

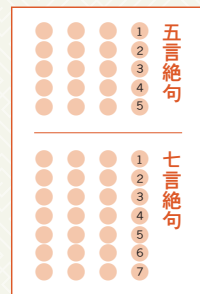
自分の考えを深める

3 三編の漢詩の中から、自然を表す表現を抜き出そう。それらは、描かれた情景の中でどのような効果をあげているだろうか。考えたことを文章に書き、交流しよう。

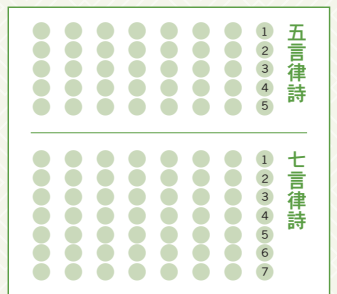
漢詩の形式

漢詩には、四句からなる絶句と、八句からなる律詩とがあり、それぞれに五言と七言があります。

絶句
 五言絶句 一句が五字で、四句からなる。
 七言絶句 一句が七字で、四句からなる。



律詩
 五言律詩 一句が五字で、八句からなる。
 七言律詩 一句が七字で、八句からなる。



●絶句の四つの句をそれぞれ、起句・承句・転句・結句といい、ここから文章の構成法を表す「起承転結」という言葉ができました。

返り点

漢文を訓読するときには、下の漢字から上の漢字へと返って読む場合があります。このとき、読む順序を示すために漢字の左下につける記号を「返り点」といいます。

①レ点 一字だけ上の字に返る。

我_レ乗_レ馬_二。
 我馬に乗る。
 不_レ知_レ道_一。
 道を知らず。

②一・二点 二字以上離れた上の字に返る。

青_一雲_二在_レ目_三前_二。
 青雲目前に在り。
 黄_一鶴_二楼_三送_レ孟_四浩_五然_六之_七広_八陵_一。
 黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る。

押韻と対句

漢詩には、決められた句の末尾に同じ響き(韻)をもった文字を置く「押韻」のきまりがあります。「韻を押す」「韻を踏む」という言い方をします。また、構造が似ている二つの句を対にして並べる「対句」という表現方法も多用されます。

絶句

杜甫

江_{カウ}碧_{ミヤクニシテ}鳥_{イロイヨ}逾_ク白_ク

山_{コウ}青_{クシテ}花_{ホツス}欲_{ホツレ}然_{モト}

今_{コン}春_{シユン}看_{ミサミサ}又_{また}過_グ

何_{ナニレ}日_カ是_{コレ}帰_キ年_{ネンナシ}

対句
 文法的にも意味的にも対応した二つの語句を並べ、言いたい事柄を際立たせたり、印象づけたります。

押韻

偶数句の末尾に同じ響き(韻)をもつ文字を置き、美しいリズムを作り出します。七言詩の場合、第一句も押韻します。

江碧にして鳥逾白く
 山青くして花然(燃)えんと欲す
 今春看又過
 何れの日か是れ帰年ならん

※「春曉」(136ページ)は、五言絶句ですが、第一句も押韻しています。



上の漢詩の舞台となった錦江の現在の様子